

# 2016 SGH通信

【全体配布用】

No.12 岐阜県立大垣北高等学校 SGH 推進部

## 海外フィールドワークの報告をします！④

昨年12月に1年生28名がベトナム・カンボジアフィールドワークに行ってきました。  
最終回は、「小児病院・CJCC・+α歴史文化散策訪問」編です。

### 参加者報告 ◇ 現地視察編 ◇

#### 【訪問①：アンコール小児病院】

1999年に認定NPO法人 フレンズ・ヴィズアウト・ア・ボーダーJAPAN がアンコール遺跡のあるカンボジア王国のシェムリアップ市に開院した病院です。入院病棟、救急室、集中治療室、手術室、歯科、眼科等を備え、毎日400～600人をこえる子供たちが外来に訪れています。

カンボジアは人口の約39%が15歳未満の子供です。カンボジアの未来を担う子供たちの健康を守るために、アンコール小児病院は活動しています。アンコール小児病院では、患者はすべて無料で診察、治療を受けることができます。どうやって病院を運営しているのかと言うと、毎年2億円の寄付のみで運営しているそうです。病院に来た人達には、診察や治療だけでなく、健康によい食べ物、感染症の予防の仕方、野菜の育て方までも指導してくれます。カンボジアの学校には保健科目がなく、国民の健康への知識があまりありません。そのため、病院に来た人たちが、今後健康に暮らせて行けるサポートをしているそうです。

また、アンコール小児病院は医療従事者育成にも力を注いでいます。1976-1979年のポル・ポト政権の影響で、カンボジアの医師の数は4000→40人と激減してしまいました。医療従事者の数を増やすとともにレベルの高い医師を育成するために、2006年から毎年1350人の医師・看護師の育成を行っています。また、アンコール病院に来るまでに、症状が悪化してしまい、手遅れになるような子供を減らすために、地方病院のレベル向上の援助もしています。

一方、アンコール小児病院では遠い地区から来た人たちのサポートも行っています。アンコール小児病院には、最高レベルの医療を求め、カンボジア全土から患者が集まってきます。そのため、遠くから来た人たちは宿泊を強いられます。病院はそういった人たちのために、家族の分の米、肉、魚などの食料と台所、シャワー、寝床等を提供しています。

しかし、アンコール小児病院にはま寄付だけでは運営が厳しいこと、施設が足りないこと、専門医が足りないことなどの多くの課題が残っています。私たちが見学できたのは、病院入ってすぐにある待合室だけでした。待合室といっても、屋外にベンチと屋根があるだけの簡易的なものでした。建物全体も、日本の病院のような清潔感はなく、まるで保育園のような雰囲気、日本の病院とのギャップに驚き、日本は本当に恵まれているのだということを実感しました。

(7組 北川若菜)

## 【訪問②: CJCC】

カンボジア日本人再開発センター(CJCC)は、産業育成を担う人材を育成すること及びカンボジアと日本の相互理解を深めていくことを目的に2004年に設立されました。人材育成コース、日本語コース、交流事業等が実施されており、カンボジア国内における雇用創出、起業促進を図るとともに、日本・カンボジア間の交流・協力関係を促進していく役割を担っています。ビジネスの面では「カンボジア日本経営者同好会」の開催。日本語の面では、日本語教師の育成、日本語関連のイベント(スピーチコンテスト・のど自慢大会)。文化の面では、季節の日本文化紹介(七夕・お月見など)、カンボジアの人々が日本文化や日本語に触れる機会を多く作っています。

私たちはここで、カンボジアについて質問する機会を頂きました。質問した内容とその答えの一部を紹介します。

Q. 何か新しいことを始めていますか？

A. 新しいビジネスを始めています。具体的には、プノンペン経済特区での製造業(日本で言うとGUやZALA)です。

Q. 貧しい子どもへの教育のサポートシステムは？

A. NGOが子どもの教育に力を入れています。無償教育を行っているところも多いです。

Q. 経済格差と教育のかかわりは？

A. 裕福な家庭の子どもは、私立の学校に通っています。学校の後に、授業についていくための塾や習い事に通っている子がほとんどです。逆に、貧困の家庭の子どもは、公立の高校か寺子屋に通っています。教科書や制服は、近所の卒業生や知り合いに譲ってもらいます。

(5組 山中悠)

## ×α 【歴史・文化散策】

私たちは今回の研修で様々な観光地に行きました。この写真はアンコールワットでのものです。アンコールワットは12世紀に建てられたクメール王朝の寺院です。(日本では鎌倉時代!)当初はインドの影響でヒンドゥー教寺院でしたが、現在は仏教寺院になっています。

こうした観光地では思い出に残る楽しい経験をする事ができた反面で、同じ国内での貧富の差を垣間見るときもあり厳しい現実を実感しました。自分たちの生活がどれだけ裕福なものなのか考える良い機会になったので貴重な経験になりました。



(1組 川瀬由依)